

## 第4章 本県農業・農村の目指すべき姿

### 1 目指すべき姿

#### 地域の魅力の原動力『やまなし農業』

本格的な人口減少・少子高齢化局面を迎える中、農業の担い手の高齢化や後継者不足、国内需要の減少を背景とした産地間競争への対応など、様々な課題を解決していく上で、果樹をはじめとする高品質な農産物や豊かな農村景観等は、全国に誇ることのできる本県の地域資源であり、地域の魅力の源泉となる力です。

将来にわたって、山梨の農業が地域の魅力を発信し続け、地域経済の牽引役となるよう、「地域の魅力の原動力『やまなし農業』」の実現を目指します。

#### [ 将来の姿 ]

安全・安心で品質の高い県産農産物や加工品は、山梨ブランドとして国内外に販路が拡大しています。

農業生産額はかつての水準に回復するとともに、農業所得が大幅に増加し、安定した農家経営が図られています。

若者を中心に新規就農者が増加し、地域に活気が生まれています。

四季折々の美しい農村景観は人々を魅了し、国の内外から多くの観光客が山梨を訪れるとともに、移住・定住する人が増えています。

再生可能エネルギーや低コスト化技術、最先端技術等の導入・普及により、農業経営の安定化と特色ある産地が形成されています。

担い手（中心経営体）への農地集積や、担い手の求める団地化等の基盤整備により、農地の有効活用や生産の効率化が進んでいます。

#### 期待される本県農業の将来展望（2030(平成42)年ごろ）

農業では、やまなしブランドの知名度の向上とオリジナル品種の普及が相まって、国内だけでなく海外でも県産農産物の販売量が増加し、農業生産額も増えています。

また、アジア地域の常設の販売・情報発信拠点では、ももやぶどうなど四季折々の農産物をはじめワインなど地場産品の魅力が発信され、やまなしの知名度の向上と海外における販路拡大が進んでいます。

それに加えて、観光との連携や、6次産業化による新たな特産品の開発、農地の集約化や再生可能エネルギーの活用、技術開発による低コスト化などにより収益性の高い農業が展開され、就農者も増えています。

更に、豊富な水資源を活用したマス類をはじめとする新たな県産ブランド魚の開発とともに、トラフグなどの高級魚の陸上養殖の取り組みが進み、旅館や飲食業などとのタイアップにより、新たな特産品として人気を呼んでいます。

（ダイナミックやまなし総合計画より）

## 2 目 標

### 高品質化・販路開拓による儲かる農業の展開 活気に満ちあふれた農山村の創造

「地域の魅力の原動力『やまなし農業』」を実現するためには、新たな視点に立ち、国内外の需要拡大や高品質化による、いわゆる儲かる農業への転換を図ることが重要です。

また、農山村の活性化を図っていくためには、農業資源を守り育てながら、交流人口の増大に取り組む必要があります。

このため、今後は、農業や食品産業等の関連産業の成長産業化を促進するための産業施策と、農山村の活性化を促進するための地域施策を車の両輪として、「高品質化・販路開拓による儲かる農業の展開」と「活気に満ちあふれた農山村の創造」という2つの大きな目標を持って、関係者と一体となって取り組んでいくこととします。

## 3 目指すべき姿の実現に向けた基本戦略

今後予測される国内における農産物需要の減少や、農業従事者の高齢化等による担い手の不足に対応していくためには、消費者が求める商品の提供に努め県産農産物の需要拡大を図りながら、安定した所得が得られる魅力ある農業を確立していく必要があります。

このため、今後も生産量日本一を誇るぶどう、もも、すももなどの果樹を中心に、高品質で付加価値の高い農産物の生産、供給を強化するとともに、消費者や実需者、流通事業者のニーズを踏まえた販売戦略を推進します。

また、若手農業者の育成や企業参入の促進を図り、担い手不足を解消していくため、需要拡大の取り組みと合わせ、新規就農者の確保、育成や、生産コストの低減、省力化の取り組みを推進します。

### 消費者や市場の需要を喚起する販売戦略

これまでの農産物流通は卸売市場経由が主体で、現在も国産果実の約8割は市場経由で取り引きされていますが、大規模小売店舗の増加やネット販売の普及など流通の多様化が進んでおり、市場や販売事業者の動向に加え、消費者の視点に立った、消費者のための販売戦略を強化していく必要があります。

このため、県内、国内、海外それぞれの消費者ニーズ、実需者ニーズ分析に基づき、流通販売対策を強化していきます。

### 県内においては

地域の食材や伝統料理などを活用した地産地消を推進し、県産農産物の需要拡大につなげていきます。

また、地域の特色ある食材や生産数量の限られた伝統野菜など、山梨の魅力伝える農産物を国内外からの多くの来訪者に知ってもらうため、農産物直売所のほか、県内ホテル、レストラン等での取り扱いを増やしていきます。

### 国内向けには

生産量が多く、市場でも高い評価を得ている果実を主体に、農業団体等と連携して国内シェアの拡大を図るとともに、多様な流通チャネルに対応できる生産・供給体制づくりに取り組みます。

また、大消費地の市場動向や小売業者・実需者等のニーズを的確に把握し、分析結果を生産者にフィードバックするとともに、流通、販売事業者と一体となった取り組みにより、県産農産物のブランド力をより一層強化していきます。

### 海外向けには

海外で人気の高いもも、ぶどうを主体に、輸送や検疫上の課題の少ないアジア地域を中心とした輸出の更なる拡大を図っていくため、国別に消費動向や消費者ニーズの把握、分析を行うとともに、輸送中の品質を保つための鮮度保持技術や病害虫の検疫対策の向上に取り組みます。

国際ブランド力を高め、更なる輸出拡大を図っていくため、年間を通して本県の観光や農産物などの魅力発信や農産物、加工品、地場産品の展示・販売を行う常設の販売・情報発信拠点を設置します。また、県内を訪れる外国人に県産農産物を食べる機会を提供することにより、本県の魅力を知ってもらい、海外における認知度向上と需要拡大につなげていきます。

### 農産物の高品質化と新たな特産品づくり

県産農産物の需要拡大を図っていくため、もも、ぶどう、すももなど主要な農産物を中心に高品質化、ブランド力の強化を推進していきます。

また、食材の有する機能性や潜在的な消費ニーズ等に着眼しながら、新たな特産品の開発、産地化を促進するとともに、6次産業化の取り組みを推進し、魅力あふれる食材の供給機能の強化を図っていきます。

### 需要拡大を支える担い手づくり

安定的な経営環境を確保し、本県農業の成長産業化につなげていくため、地域の中核を担う農業後継者の育成や、若手農業者の確保対策を強化するとともに、法人化や企業の農業参入を促進していきます。

また、約1/3を占める兼業農家の活躍や、元気な高齢者の就農を促進するため、省力化技術の開発や技術習得支援に取り組むとともに、女性や若者など多様な人材が活躍できる環境づくりを推進します。

更に、農業人口の増加や県産農産物の需要拡大につなげていくため、地域の農産物や農業資源を活用した都市・農村交流を促進していきます。

## 4 取り組みに当たっての考え方

目指すべき姿を実現するため、市町村をはじめ、JAなど農水産業に関わる機関や関係団体等と緊密に連携しながら、農業者の主体的な取り組みの下、各種施策・事業を着実に推進していきます。